

S eeds 隠蔽部材料劣化を起因とする 建築物要求性能の経時的変化

Keywords 建築物隠蔽部, 熱湿気劣化, 耐久性, 要求性能

01 本研究の適用分野・用途

- スtock型社会
- 建築物のメンテナンス・リフォーム
- 必要性能の確保
- 現在の性能把握、劣化寿命予測

02 アピールポイント

- 紫外線劣化を伴わない建築物隠蔽部に対する取り組み
- メンテナンス周期の最適化
- 中古市場における性能担保
- 各種性能の改修提案

研究概要

ストック型市場の拡大・建築物の長期利用の実現によって、建築物のメンテナンスやリフォームが多く行われている。しかしながら、建築物の隠蔽部については交換が難しい箇所がある。これらはメンテナンスの必要性も把握されておらず、材料劣化の進行による不具合の顕在化によって補修されるため、被害範囲が広く費用も多大になる可能性が高い。そのため、現時点の性能把握、劣化寿命予測、各種性能の改修提案が必要となる。

劣化した材料は、新品と比較してどの程度の性能低下(向上)が生じているのか？

・機械的性質・遮音性・耐火性・断熱性・防水性 等
消費者は

・初期性能から変化していることを知っているのか？

・購入後に「想定より暑い・うるさい」と思う可能性はないか？

「耐久性」というと紫外線や雨水による防水・防錆・色褪せ等のイメージが先行するが、実際には建築物に要求される全ての性能に対して、耐久性が求められている。

材料劣化の把握を行うことは、その建築物を利用・居住する人にとって、安心・安全な環境を確保し、更なる快適な生活を提供することができるようになり、環境負荷の少ない建設業界になっていくと考えられる。



KINDAI
UNIVERSITY

近畿大学工学部
(広島キャンパス)

建築学科

講師 吉谷公江 (よしたに きみえ)

